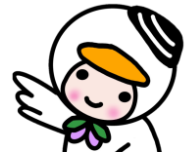


小中連携に特化した授業改善②



苫小牧市教育委員会指導室

第7エリア（苫小牧東中・苫小牧東小・若草小）では、目指す子供像である「気づき、考え、主体的に学ぶ児童生徒」にせまるために、小中教員協働による学習指導案の検討・作成を行っています。検討した内容を、校内研修における公開授業や中学校から小学校への乗り入れ授業に生かすなど、実効性のある取組となっています。

取組の内容

小中教員協働の学習指導案検討を踏まえた授業改善と乗り入れ授業

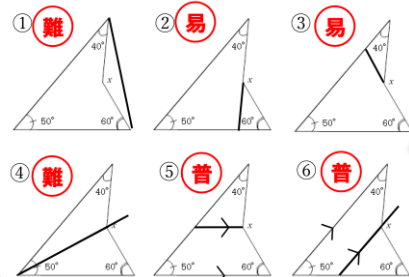
【小中教員協働の学習指導案検討を踏まえた授業改善】

展開 35分	<p>【知識の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の求め方に関する既習事項を全体で確認する。 ○課題となる図形に入れる補助線をグループで交流することで、課題解決の見通しをもたせる。(その後、全体で確認) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全体で復習を行い、既習事項を黒板に掲示していく。 ◇どこに補助線を引けばいいのかを確認し、共通のものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●角や平行線の意味や性質を理解している。
	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○難易度を参考にしながら最初に取り進む番号を選び、ワークシートに自分の考えた方法を記入する。 ○記入した考え方をグループの中で交流する。(発表後に質問・意見の時間をとる。) ○記入した意見を全体で発表し、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートの使い方やこの後の作業の流れについて説明する。(どの既習事項を使ったのか、何番をどのように解いたかなどが分かるように記入する。) ◇全員1つずつは必ず説明するように指示を出す(全く同じでも良いので、複数の答えがある人は、全てでなくても良い。) ◇記入したワークシートを基に、黒板で説明させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項を使って、解き方を考えている。 ●記入したことを相手に伝えている。

中学校2年生数学科の学習指導案検討を小中教員協働で行いました。苫小牧東中学校の研修の柱である「課題解決の見通し」、「交流の形態と目的」、「教材の示し方」の3つの視点で協議を行いました。

小中教員協働の検討を踏まえた改善点を赤字、校内の検討を踏まえた改善点を青字で記載しています。学習指導案検討の成果が、視覚的にわかる取組です。

小学校の先生から、算数科に苦手意識をもっていた生徒が多いという意見が出され、教材の示し方について協議しました。どの生徒もスムーズに取り組めるように難易度を示すことが効果的ではないかという意見を踏まえ、「**易・普・難**」の3段階で難易度を示しました。授業では、数学科に苦手意識をもっている生徒も主体的に取り組むことができ、本時の目標達成につながりました。



【小中教員協働の学習指導案検討を踏まえた乗り入れ授業】



小中教員協働の学習指導案検討を踏まえ、苫小牧東小学校5年生の参観日に苫小牧東中学校の芹川教諭がT1、苫小牧東小学校の松井教諭がT2として体育科の授業を行いました。乗り入れ授業の様子を保護者に見てもらうことで、小中連携に関する理解を深め、学校との協力関係を構築する効果が期待できます。